

海事資料 FAX 短信

Vol.143 2009.2.5

(財)日本海事広報協会・海事情報部 TEL 03-3552-5035 FAX 03-3553-6580
ホームページアドレス <http://www.kaijipr.or.jp/> E-mail jo-ho@kaijipr.or.jp

このFAX短信は、海運、造船、港湾、港運など海事関係団体が、最近発行した機関誌や海事関係資料、海事団体のイベント情報などをご紹介しますものです。

* 機 関 誌 ・ 広 報 誌 *

<p>特集 中東アジア・アフリカの港湾 「港湾」1月号 日本港湾協会 中東アジア地域は先進諸国と異なる仮囲圏の政治・経済システムの下で著しい経済成長を続ける。ドバイ港はコンテナ取扱世界8位(約900万TEU)で、同地域の港湾は今後も伸びが見込まれ、また、本年5月、横浜で第4回アフリカ開発会議が開催されアフリカも経済発展が注目。03-5549-9575</p>	<p>「海の森」再生に向けて 「Ship&Ocean Newsletter」NO.201 海洋政策研究財団 海藻群落が消失する「磯焼け」の一因、溶存鉄の不足を、鉄鋼スラグと腐植物質を1:1で混合したユニットを海岸の汀へ埋設して磯焼けを回復する実海域実験が行われ、同技術の有効性・汎用性が確認された。重金属類の影響は無く、効果の継続性を検証中。03-3502-1828</p>
<p>観測機器が伝える歴史・天測計算器 「水路」Vol137.No.4 日本水路協会 戦前までに活躍した機器を本誌に順次紹介。今号は天測計算機。天測で船位を求める方法は、代数学的解法だが、同計算機なら面倒な計算なしに方位角や高度角を求め位置を確認できた。 03-5708-7074</p>	<p>ミス日本「海の日」に聞く 「船員ほけん」1・2月号 船員保険会 平成20年度ミス日本「海の日」の都甲奈央さんは「船員さんがケガをされた時にいろいろとサポートし、健康管理もしているというお話を伺い、船員さんが安心して働ける環境を作っていただいているという印象を持ちました」と同会事業の意義を語った。03-3407-6064</p>
<p>海洋酸性化による「負の連鎖」に警鐘 「Blue Earth」11-12月号 海洋研究開発機構 大気中のCO2増加で、海水中のCO2も増加し、海洋が酸性化、骨格や殻を造る炭酸カルシウムが溶けて、サメや貝類が死滅するという。日本海溝に多く生息し、傘の中が赤いアサギウシの幼生は貝類の表面に付着し成長するため、影響を懸念。045-778-5406</p>	<p>特集ソマリア海賊問題について 「月報Captain」第388号 日本船長協会 最近の報道で、政府の対応が注目されている標記テーマについて、国土交通省海事局の岡西外航課長、日本郵船株の鈴木安全環境グループ長、東海大学海洋学部の山田准教授(海洋政策研究財団研究員)の各氏が解説。03-3265-6641</p>
<p>世界最先端の自動化ターミナル誕生 「名古屋港」Vol160No.1 名古屋港管理組合 名古屋港飛島ふ頭南側コンテナターミナルの第2バースが昨年12月オープン。日本初導入のAGV(自動搬送台車)とRTG(ラバータイヤ式トランスファークレーン)により世界最先端の自動化ターミナルを実現。完成・供用式典には国土交通副大臣はじめ約100名が出席。052-654-7837</p>	<p>日本でも広がり始めた海のエコラベル 「Ship&Ocean Newsletter」No.203 海洋政策研究財団 持続可能で環境に配慮した漁業を認証し、認証された漁業で得られた水産物にMSC(Marine Stewardship Council)のロゴマーク(通称「海のエコラベル」)を付け、ラベルのついた商品を消費者に選択してもらう取組が日本でも広がり始めた。03-3502-1828</p>

「J R T T」No.20
特集 共有船探訪

鉄道・運輸機構
045-222-9101

「港のたより」Vol.87 寒地港湾技術研究センター
ザ・シホジウムinみなと帯広の開催 011-747-1688

「Marine Voice21」
新みなとまち紀行 佐渡島

日本埋立浚渫協会
03-5549-7468

「日本倉庫時報」第1179号 日本倉庫協会
物流フォーラム基調講演(要旨) 03-3643-1221

「マリッ エンヂニア」No.745 日本船舶機関士協会
遠隔操縦による主機関機動不能 03-3264-2518

「日造協」第413号 日本造船協力事業者団体連合会
安全体感教育を坂出、広島で実施 03-5510-3161

* 海のイベント情報 *

「第10回港と文化を語る集い」開催!

「第10回港と文化を語る集い」が(財)日本海事センター、(社)日本港湾協会の共催で、2月25日(水)、東京・平河町の海運クラブ2Fホールで開催される。

定員は400名、参加費無料(懇親会は有料)。
2月12日までの事前申込制(FAX 申込書兼参加証)。
申込・問合せ先:
(財)港湾空間高度化環境研究センター
TEL:03-5443-5386、FAX:03-5443-5380

今治海事展 / BARI-SHIP開催へ

CMPビジネスメディア㈱主催、国土交通省、(社)日本船主協会、(社)日本造船工業会などが後援(予定)する標記海事展が、5月21日(木)~23日(土=23日は一般来場可)日本有数の海事都市である愛媛県今治市のテクスポーツ今治で開催される。造船/船舶修理/船用工業製品や港湾や関係商社などから出展予定。
問合せ先: CMPビジネスメディア㈱
TEL:03-5296-1020、FAX:03-5296-1018

ジャパンインターナショナル ポートショー2009イン横浜

開港150周年を迎える「みなとよこはま」で国際ポートショーが開催される。
国産、輸入のポート、ヨット、水上オートバイなどの

新モデルや話題のマリンエンジンや航海計器が勢揃いするほか、関連イベントも盛り沢山。
主催:(社)日本舟艇工業会、後援:国土交通省ほか
開催日:3月12日(木)~15日(日)10時~18時
(3月12日は11時45分開会式、12時から一般開場)
会場:パシフィコ横浜
入場料:一般千円・高校生以上(中学生以下無料)
問合せ先:03-5403-2629

「海運・航空と環境問題」テーマに企画展&ショートトークを開催

日本郵船歴史博物館で 4月11日まで
横浜/馬車道駅から徒歩2分の日本郵船歴史博物館で、通常展示に加え、国際海運が地球環境保全と経済成長を両立させるための取組を紹介。入場料一般500円、中学生300円、小学生以下無料。
3月28日(土)14:00~15:30
海洋研究開発機構の研究者によるショートトークと環境Q&A(入場料のみ)

「FAX短信」についてのアンケートにご協力下さい。
アンケートは当協会ホームページ(<http://www.kaijipr.or.jp>)の「書籍販売」をクリックし、その中の「FAX短信」の欄にあります。